

令和7年度 全国学力・学習状況調査 荒川区結果（概要）

1 全国学力・学習状況調査の概要

（1）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査の概要

ア 調査実施日 令和7年4月17日（木）

※中学校理科は、4月14日（月）～17日（木）の内、いずれか1日で実施。

イ 調査対象 小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒

ウ 調査事項

- ・教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

※中学校理科は、オンラインによる回答方式で実施

・質問紙調査（児童・生徒、学校）

※オンラインによる回答方式で実施

エ 調査問題

- ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。

- ・各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

オ 調査の特徴

- ・中学校理科においてCBT調査を導入

【問題の構成】

- ・公開問題と非公開問題を組み合わせて出題。

- ・公開問題には、全日程に共通する問題と実施日別の問題がある。

- ・非公開問題は、幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解く。

【IRT（Item Response Theory）に基づく分析の結果】

- ・IRTを用いて、児童・生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童・生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童・生徒の学力スコアを推定する。

- ・IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点「IRTスコア」で表している。

IRTとは

IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

IRT(Item Response Theory : 項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。



参考：文部科学省 全国的な学力調査に関する専門家会議（令和7年度第4回）・
全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ（令和7年度第2回）合同会議）資料
「令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRTを用いた結果返却について」

2 荒川区の調査結果の概要

(1) 教科に関する調査 ○全国平均より高いもの

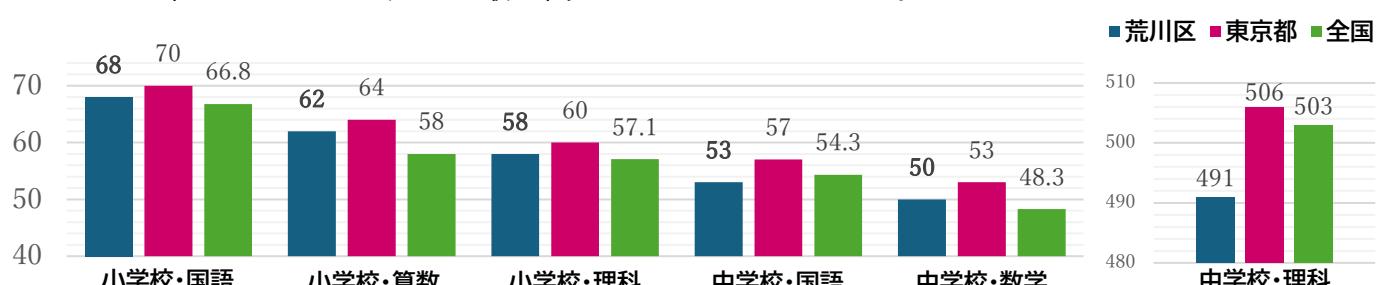
ア 結果 (平均正答率 (%), 平均IRTスコア)

小学校 (24校)	国語		算数		理科	
年度	R6	R7	R6	R7	R4	R7
荒川区 (全国との差)	○68 (+0.3)	○68 (+1.2)	○67 (+3.6)	○62 (+4.0)	○64 (+0.7)	○58 (+0.9)
東京都	70	70	68	64	65	60
全国	67.7	66.8	63.4	58.0	63.3	57.1
中学校 (10校)	国語		数学		理科 (R7は平均IRTスコアで表示)	
年度	R6	R7	R6	R7	R4	R7
荒川区 (全国との差)	58 (-0.1)	53 (-1.3)	○56 (+3.5)	○50 (+1.7)	48 (-1.3)	491 (-12)
東京都	61	57	57	53	51	506
全国	58.1	54.3	52.5	48.3	49.3	503
中学校 (10校)	理科 (IRT バンド集計値 (%))					
IRT バンド	5 (上位)	4	3 (標準)	2	1 (下位)	
荒川区 (全国との差)	5.7 (-0.5)	19.4 (-0.9)	39.4 (-2.6)	28.7 (+1.4)	6.8 (+2.6)	
東京都	5.5	21.4	43.8	25.7	3.6	
全国	6.2	20.3	42.0	27.3	4.2	

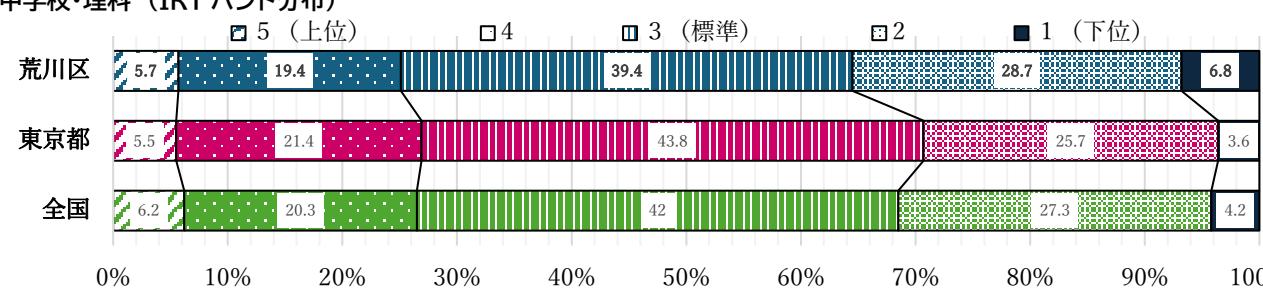
※荒川区、東京都の結果については、国から整数で提供されている。

※理科の実施は3年に1度程度のため、前回は令和4年度となっている。

※中学校理科は、令和7年度はCBT方式での実施のため、平均正答率ではなく、平均IRTスコアとして表示している。IRTバンドは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものであり、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなっている。



中学校・理科 (IRT バンド分布)



イ 各教科

【国語】

<小学校>

☆都平均を2ポイント下回ったが、
全国平均を1.2ポイント上回った。

(傾向)

○学習指導要領の全ての内容において、全国平均と同じもしくは全国平均を上回った。

荒川区の平均正答率が高かった設問

【区84. 4%、都84. 2%、国81. 6%】

- ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかを見る問題（「C読むこと」、思考・判断・表現、短答式）

【区69. 9%、都69. 7%、国65. 5%】

- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかを見る問題

（「C書くこと」、思考・判断・表現、選択式）

荒川区の平均正答率が低かった設問

【区58. 3%、都62. 1%、国61. 3%】

- ・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題（「B書くこと」、思考・判断・表現、記述式）

<中学校>

☆都平均を4ポイント下回り、
全国平均を1.3ポイント下回った。

(傾向)

●学習指導要領が示す「言葉の特徴や使い方に
関する事項」、「A 話すこと・聞くこと」、「C 読
むこと」の正答率が低い傾向にあった。

荒川区の平均正答率が高かった設問

【区65. 3%、都67. 4%、国63. 3%】

- ・書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかを見る問題
（「B書くこと」、思考・判断・表現、選択式）

荒川区の平均正答率が低かった設問

【区74. 6%、都80. 8%、国77. 9%】

- ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る問題
（「A話すこと・聞くこと」、思考・判断・表現、選択式）

【区86. 3%、都90. 7%、国89. 9%】

- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかを見る問題
（「C読むこと」、思考・判断・表現、短答式）

【算数】

<小学校>

☆都平均を2ポイント下回ったが、
全国平均を4ポイント上回った。

(傾向)

○学習指導要領の全ての領域において、全国平均を上回った。

荒川区の平均正答率が高かった設問

【区86. 8%、都85. 0%、国78. 7%】

- ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかを見る問題
（「A数と計算」「Dデータの活用」、知識・技能、選択式）

【区64. 1%、都61. 4%、国58. 3%】

- ・平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかを見る問題（「B図形」、知識・技能、短答式）

荒川区の平均正答率が低かった設問

【区29. 6%、都34. 0%、国31. 0%】

- ・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る問題
（「Dデータの活用」、思考・判断・表現、記述式）

<中学校>

☆都平均を3ポイント下回ったが、
全国平均を1.7ポイント上回った。

(傾向)

○学習指導要領の全ての領域において、全国平均を上回った。

荒川区の平均正答率が高かった設問

【区52. 3%、都52. 5%、国45. 2%】

- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかを見る問題
（「A数と式」、思考・判断・表現、記述式）

【区40. 5%、都44. 0%、国36. 3%】

- ・統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかを見る問題（「B図形」、思考・判断・表現、短答式）

荒川区の平均正答率が低かった設問

【区34. 2%、都38. 1%、国34. 7%】

- ・一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求める
ことができるかどうかを見る問題
（「C関数」、知識・技能、短答式）

【理科】

<小学校>

☆都平均を2ポイント下回ったが、全国平均を0.9ポイント上回った。

(傾向)

○学習指導要領の「『生命』を柱とする領域」では、全国平均・都平均を上回った。

○学習指導要領が示す「『粒子』を柱とする領域」の正答率が低い傾向にあった。

荒川区の平均正答率が高かった設問

【区71.3%、都69.7%、国70.7%】

・ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかを見る問題

(「『生命』を柱とする領域」、知識・技能、短答式)

【区73.1%、都66.0%、国62.0%】

・発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る問題

(「『生命』を柱とする領域」、思考・判断・表現、選択式)

荒川区の平均正答率が低かった設問

【区45.5%、都49.9%、国50.6%】

・水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかを見る問題

(「『粒子』を柱とする領域」、思考・判断・表現、短答式)

【区62.7%、都64.8%、国64.2%】

・水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかを見る問題

(「『粒子』を柱とする領域」、知識・技能、選択式)

<中学校>

☆都平均IRTスコアを15ポイント、全国平均IRTスコアを12ポイント下回った。

(傾向)

○評価の観点の内、「思考・判断・表現」の正答率が低い傾向にあった。

荒川区の平均正答率が高かった設問

※全日程共通問題から抜粋

【区47.6%、都47.3%、国44.9%】

・塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかを見る問題

(「『粒子』を柱とする領域」、知識・技能、短答式)

荒川区の平均正答率が低かった設問

【区33.9%、都36.9%、国36.2%】

・露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかを見る問題

(「『粒子』を柱とする領域」、思考・判断・表現、記述式)

【区72.8%、都80.3%、国79.4%】

・科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかを見る問題

(「『粒子』を柱とする領域」、思考・判断・表現、記述式)

(2) 質問紙調査

小学校・中学校とともに77の調査項目があり、その中から荒川区の教育施策の推進を考える上で関連がある項目を抜粋した。※単位は%

ア ICT機器の活用に関する質問

調査項目	小学校		中学校	
	荒川区	全国	荒川区	全国
①学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、 <u>1日当たりどのくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか</u> (遊びなどの目的に使う時間は除く) 【3時間以上、2時間以上3時間より少ない、1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない】の合計	44.7	42.5	37.2	31.6
②5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、 <u>画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる</u> 【とてもそう思う、そう思う】の合計	89.8	88.1		
③5年生まで(中学校は1・2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどの <u>ICT機器を、どの程度使用しましたか</u> 【ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上】の合計	90.1	89.7	85.9	92.2
④5年生までの学習の中でPC・タブレットなどの <u>ICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる</u> 【とてもそう思う、そう思う】の合計	82.3	84.6		
⑤5年生までの学習の中でPC・タブレットなどの <u>ICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができる</u> 【とてもそう思う、そう思う】の合計	87.3	87.5		
⑥あなたは自分がPC・タブレットなどの <u>ICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができる</u> と思いますか 【とてもそう思う、そう思う】の合計	82.8	81.8	81.9	83.6
⑦あなたは自分が <u>インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)</u> ことができると思いますか 【とてもそう思う、そう思う】の合計	89.2	89.8	90.3	91.5
⑧あなたは自分がPC・タブレットなどの <u>ICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)</u> ことができると思いますか 【とてもそう思う、そう思う】の合計	70.4	69.3	61.0	63.3
⑨あなたは自分がPC・タブレットなどの <u>ICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができます</u> だと思いますか 【とてもそう思う、そう思う】の合計	82.8	76.7	76.5	76.6

【考察】

荒川区では、各学校の教育活動のみならず、ICT機器を家庭に持ち帰り、ICT機器を活用した家庭学習を推奨している。子どもたちは、全国平均と比べ、学校授業時間以外にもICT機器を積極的に活用し、学習に取り組んでいる傾向にある。

小学校では、共同編集アプリやプレゼンテーションソフト活用した授業を通じて、一人ひとりの情報活用能力を高めている一方で、友達と考えを共有したり比べたりするためのICT機器の活用には課題がある。

中学校では、授業中におけるICT機器の活用機会が減少傾向にあることが課題として挙げられる。

子どもたちがICT機器を活用することのよさを感じ、学びをより深めることができるように、協働的な学習の場面でのICT機器の効果的な活用と継続的な指導を行っていく必要がある。

イ 読書に関する質問

調査項目	小学校		中学校	
	荒川区	全国	荒川区	全国
① <u>読書は好きですか</u> 【当てはまる、どちらかといえば当てはまる】の合計	71.6	69.7	54.6	61.6
② <u>学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか</u> (電子書籍も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) 【2時間以上、1時間以上 2時間より少ない、30分以上 1時間より少ない】の合計	35.3	31.1	23.6	21.4
③ <u>新聞を読んでいますか</u> 【ほぼ毎日読んでいる、週に1~3回程度読んでいる、月に1~3回程度読んでいる】の合計	25.1	22.0	10.5	13.5
④ <u>総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか</u> 【当てはまる、どちらかといえば当てはまる】の合計	86.9	82.3	80.9	79.5

【考察】

荒川区の子どもたちは、読書習慣が定着しており、読書に親しんでいる子が多い。また、全国平均と比較し、総合的な学習の時間での探究的な学習活動に取り組めている。その背景には、全校に配置している学校司書や司書教諭を中心に、国の基準を上回る蔵書数の確保や読書環境の整備、「図書館を使った調べる学習コンクール」の取組や新聞を活用した授業の実施、家庭と連携した「家読(うちどく)」を推進していることが挙げられる。

引き続き、学校の授業時間以外での読書時間や新聞を読む機会を設定し、学校司書や司書教諭との連携の下、学校図書館を活用した授業実践を行い、子どもたちの読書環境の整備に努めていく。

ウ 学校生活に関する質問

調査項目	小学校		中学校	
	荒川区	全国	荒川区	全国
① <u>自分には、よいところがあると思いますか</u> 【当てはまる、どちらかといえば当てはまる】の合計	86.5	86.9	86.9	86.2
② <u>先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか</u> 【当てはまる、どちらかといえば当てはまる】の合計	92.8	92.2	90.8	92.2
③ <u>学校に行くのは楽しいと思いますか</u> 【当てはまる、どちらかといえば当てはまる】の合計	88.5	86.5	86.3	86.1
④ <u>いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか</u> 【当てはまる、どちらかといえば当てはまる】の合計	96.8	97.2	94.5	95.9
⑤ <u>友達関係に満足していますか</u> 【当てはまる、どちらかといえば当てはまる】の合計	91.5	91.7	91.9	91.4

【考察】

荒川区の子どもたちは、学校に通うことを楽しいと感じている子が多い。その一方で、自分のよさや友達関係に対する肯定的を感じている割合は、全国平均に比べ低い傾向にある。

学校行事や特別活動、特別の教科 道徳の学習等を通じて、一人ひとりのよさや友達の大切さについて実感させたり、いじめはどんな理由があってもいけないことであると認識させたりする活動を実施し、子どもたちの自己肯定感を高め、円滑な人間関係を築けるよう継続的に指導を行っていく。

工 家庭学習に関連する質問

調査項目	小学校		中学校	
	荒川区	全国	荒川区	全国
①学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 【3時間以上、2時間以上3時間より少ない、1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない】の合計	83.4	81.4	83.4	80.7
②学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く) 【3時間以上、2時間以上3時間より少ない、1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない】の合計	44.7	42.5	37.2	31.6
③土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 【4時間以上、3時間以上4時間より少ない、2時間以上3時間より少ない、1時間以上2時間より少ない】の合計	53.3	47.1	58.7	57.9

【考察】

学校の授業時間以外の平日及び学校が休みの日の1日当たりの学習時間は、小・中学校ともに全国平均を上回っている。さらに、学校の授業時間以外の平日の学習にICT機器を使っている割合は全国平均より高い。

その理由に、荒川区全体でICT教育を推進し、学校・家庭でいつでもどこでもICT機器を活用して学びを深めるための学習環境を整えていることが考えられる。

今後も子どもたちの学習意欲を高め、学校・家庭での継続的な学びを実現するためのICT機器を効果的に活用した授業を推進していくとともに、家庭での見守りやICT機器使用の際のルールの徹底など、家庭と連携を図りながら家庭での学習環境を整えていく。

(参考) 教科に関する調査 ~荒川区の平均正答率が低かった問題~

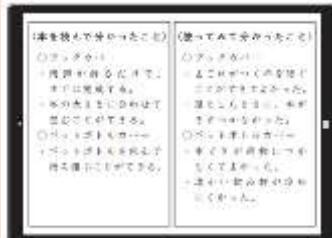
【国語】

小学校国語 大問2三

目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題

「物を包む使い方」に関する【ちらし】の内容を条件に合わせて書き直す。

【調べたこと】



【ちらし】



条件①

【ちらし】の _____ を書き直し、くわしくすること。(一文でなくてもよい。)

条件②

【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。

条件③

60字以上、100字以内にまとめて書くこと。

＜解答例＞ 何回か折って本を包むと、ブックカバーになり、よごれがつくのを防ぐことができます。また、ペットボトルを包んで持ち運ぶこともでき、水できが荷物につくのを防ぐことができます。(84字)

【算数】

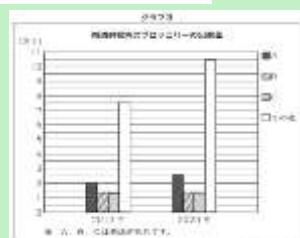
小学校算数 大問1(2)

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る問題

2023年の都道府県 A のプロッコリーの出荷量が 2013 年より増えたかどうかがわかるグラフを選択し、そのわけを言葉や数を使って書く。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらが 1 つのグラフを見れば、都道府県 A のプロッコリーの出荷量が、増えたか増えなかと思います。



＜解答＞

【記号】ア

【わけ】 グラフ3を見ると、2013 年の都道府県 A のプロッコリーの出荷量は約 2 万 t、2023 年の都道府県 A のプロッコリーの出荷量は約 2.5 万 t で 2023 年の方が多いです。だから、都道府県 A のプロッコリーの出荷量は増えています。

中学校国語 大問2二

相手の反応を踏まながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することが出来るかどうかを見る問題

村田さんがスピーチの中で下線部〇イ「…あ、1 年間で採取した種のうち、半分以上は残ってしまうのです。」とその場で発言した理由を選択肢から選ぶ。

【村田さんのスピーチ】



＜解答＞ 聞き手の反応から、採取した種がどのくらい残るのか、疑問を感じていると判断したから。

中学校数学 大問4

一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求める能够かどうかを見る問題

一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める。

④ 一括割合 $\frac{y}{x}$ が 6 のときの変化の割合は 6 です。この一括割合について、その増加量が 2 のときの y の増加量を求めて下さい。

＜解答＞

12

小学校理科 大問4(1)

水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題

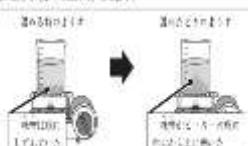
問題に対するまとめに関する文章の空欄に、実験の結果だけではまとめられない理由を書く。

【問題】

ビーカーの底の中心を温めたとき、水はどのように温まるのだろうか。

次回

（1）2つめのビーカーに333gの水をうめる。
（2）に水槽を下すと、よく温むていいと書いてあります。
（3）実験用ラミンでビーカーの底の中心を温め、水槽の水を温め
（4）手触りを温めましたが、水を試す。



【問題に対するまとめ】

ビーカーの底の中心を温めたとき、水の温められた部分が
上に移動して、全体が温まる。

（1）

もしいちどもまだえてて温められただけ。この実験の
【結果】だけでは、そのようなまとあはできないと思うな。>
この実験室は、水の【A】について調べていないだから。



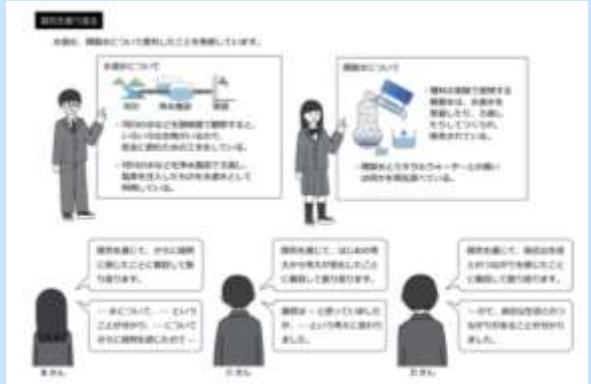
<解答例>

水の上の部分の温度

中学校理科 大問1(6)

科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題

水道水、精製水の探究に関する発表内容から、3人の振り返り内容を参考にして、水道水、精製水に対する自身の振り返りを書く。



<解答例> 精製水は水道水を蒸留したり、ろ過したりしているということが分かり、ミネラルウォーターはどのようにして作られているのかについてさらに疑問を感じたので、調べてみたいと思いました。

【参考】

全国学力・学習状況調査の問題（国立教育政策研究所ホームページ）

<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>